別紙１

簡易専用水道設置計画事前協議書

　　年　　月　　日

　　（あて先）札幌市保健所長

　　　　　　　　　　　　　　　　　　住　所

　　　　　　　　簡易専用水道設置者　氏　名

　　　　　　　　　（又は代理人）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　電　話　　　　　　　担当者

法人にあっては、その名称、主たる事務所の所在地及び代表者の氏名

　札幌市簡易専用水道指導要領第７条の規定に基づき、当該給水設備に係る設置計画について下記のとおり提出します。

記

１　施設の名称

２　施設の所在地

３　簡易専用水道の概要　　　　　 　　　 別添のとおり

４　簡易専用水道の審査項目表及び図面等 　 別添のとおり

５　工事予定期間

　　　　　　年　　　　　月　　　　　日～　　　　　　年　　　　　月　　　　　日

６　簡易専用水道設置者

　　住　所

　　氏　名

７　簡易専用水道設計者

住　所

　　氏　名

電　話

　　ＦＡＸ　　　　　　　　　　　　　　　担当者

簡　易　専　用　水　道　の　概　要

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 施設の概要 | 主要用途 | □共同住宅（□分譲：　　戸　□賃貸：　　戸）　□社宅　□寄宿舎□事務所　□学校　□病院　□店舗　□旅館　□工場　□その他（　　　） |
| 建築物 | 地上　　　　階 地下　　　　階　　延べ床面積　　　　　　　　　　m2 |
| 給水面積 | m2 | 給水人口 | 人 |
| 給水方式 | □ポンプ加圧方式　　□高置水槽方式　　□圧力タンク方式□水道直結箇所有（　　　　　　　　）　□その他（　　　　　　　　） |
| 給　　　　水　　　　設　　　　備　　　　の　　　　概　　　　要 | 1日使用水量 | 　　　　　　　　　m3 |
| 受　　水　　槽 | 容量　　　 | 総容量　　　　　　m3（　　　m×　　　m×　　　mH）有効容量　　　　　m3（　　　mH） |
| 材質 | □FRP　　□SUS　　□コンクリート　　□その他（　　　　　　　） |
| 槽　　数 | □2槽式　　□単槽式 | 型　　式 | □床置型　　□床下型 |
| マ　ンホール | 直径（　　　　mm）　　　　個数（　　　個／1槽　合計　　　個）施錠：□有　□無　　　　立ち上げ：　　　mm　　□防水密閉構造 |
| 設置場所 | □建築物内（地上 　階・地下 　階【　　　　】）□地下ﾋﾟｯﾄ　□建築物外 |
| 高　置　水　槽 | 容量　　　 | 総容量　　　　　　m3（　　　m×　　　m×　　　mH）有効容量　　　　　m3（　　　mH） |
| 材質 | □FRP　　□SUS　　□コンクリート　　□その他（　　　　　　　） |
| 槽　　数 | □2槽式　　□単槽式 | 型　　式 | □床置型 |
| マ　ンホール | 直径（　　　　mm）　　　　個数（　　　個／1槽　合計　　　個）施錠：□有　□無　　　　立ち上げ：　　　mm　　□防水密閉構造 |
| 設置場所 | □建築物内（地上 　階・塔屋 　階【　　　　】）　□建築物外 |
| 給水ポンプ | 台数：　　　台　　性能：　　　　L／min　全揚程：　　　　　m |
| 給水管 | 材質 | □硬質塩化ﾋﾞﾆﾙﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管　□ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ粉体ﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管　□ｽﾃﾝﾚｽ鋼管　□その他（　　　　　　　） |
| 管更正 | □有（　　　年　　月：方法　　　　　　　　　　　　　　）　□無 |
| 継手 | □コア内蔵防食継手　□ステンレス継手　□その他（　　　　　　　） |
| 直結給水栓 | □有（場所：　　　　　　　　）　　□無 |
| 防錆剤使用 | □有（商品名　　　　　　　　　：　　　年　　月使用開始）　□無 |
| 排水ポンプ | （地下ピット式の場合）台数：　　台　　性能：　　　　L／min |
| 雑用水 | 給水系統 | □飲料系統と同じ　　□飲料系統と別 | 水源 | □水道水　□井水等 |
| 水槽 | □飲料用水槽と兼用　□飲料用水槽と別（　　 m×　　 m×　　 mH） |
| 給水開始前の措置 | □給水管洗浄（　　　年　　月実施）□貯水槽清掃（　　　年　　月実施） |

簡　易　専　用　水　道　審　査　項　目

１　貯水槽の設置場所　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（太枠内のみ記入）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 番号 | 項目 | 基　　準 | 設　計　値　等 | 参照図面番号等 | 判定 |
| 受水槽 | 高置水槽 |
| ⑴ | 設置場所 | 建築物内で維持管理の容易な場所 | 地上（　 　階）地下（　 　階） | 地上（　　階） |  | 適・否 |
| ⑵ | 点検空間 | 上部 1,000 mm以上下部　 600 mm以上周囲　 600 mm以上 | 上部（　　 mm）下部（　　 mm）周囲（　　 mm） | 上部（　　 mm）下部（　　 mm）周囲（　　 mm） |  | 適・否 |
| ⑶ | 飲料水が汚染されるおそれのある上部配管・機器等 | ないこと又は必要な措置を講じること | 上部配管・機器等□無・□有（措置：　　　　　　　　　） | 上部配管・機器等□無・□有（措置：　　　　　　　　　） |  | 適・否 |
| ⑷ | 地下ピット内に設ける場合 | 昇降の際の安全措置 | 安全に昇降できる措置を講ずること（階段、手掛かり、ﾀﾗｯﾌﾟの背もたれ等） | 措　置（　　　 　） |  |  | 適・否 |
| 点検口の位置 | 安全かつ容易に出入りできる位置に設けること | □有・□無 |  | 適・否 |
| 貯水槽の位置 | 点検口の直下に貯水槽を設けないこと | 直下に□無・□有 |  | 適・否 |
| 汚染のおそれのある配管の貫通 | ないこと | 汚染のおそれのある配管□無・□有 |  | 適・否 |
| 排水槽等の隣接 | 隣接させないこと（やむを得ず隣接させる場合、離間距離を5m以上とること） | 隣接排水槽等□無・□有離間距離（　　 m） |  | 適・否 |
| 排水用ポンプ・警報装置 | 設けること | □有・□無 |  | 適・否 |
| ⑸ | 換気設備 | 十分なものであること | □有・□無 | □有・□無 |  | 適・否 |
| 照明設備 | 十分なものであること | □有・□無 | □有・□無 |  | 適・否 |
| ⑹ | 床面の排水 | 排水に支障のない構造とすること | 支　障□無・□有 | 支　障□無・□有 |  | 適・否 |

２　貯水槽の構造　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（太枠内のみ記入）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 番号 | 項目 | 基　　準 | 設　計　値　等 | 参照図面番号等 | 判定 |
| 受水槽 | 高置水槽 |
| ⑴ | 1日使用水量 | 根拠が示されていること | （　　　　　　　　m3） |  |  |
| 有効容量（容量算定計算書添付） | 過大でないこと（1日使用水量に対して4/10～6/10【受水槽】、1/10程度【高置水槽】） | （　　　 　m3）（　　　/10） | （　　　 　m3）（　　　/10） |  | 適・否 |
| ⑵ | 消火用水槽との兼用 | 兼用しないこと | □無・□有 | □ 無・□ 有 |  | 適・否 |
| ⑶ | 槽数 | 2槽式とすること | （　　　槽式） | （　　　槽式） |  | 適・否 |
| ⑷ | 槽内部の給水管　以外の配管 | ないこと | □ 無・□ 有 | □ 無・□ 有 |  | 適・否 |
| ⑸ | 高水位と天井との間の点検空間 | 十分な点検空間を確保 | □ 有・□ 無 | □ 有・□ 無 |  | 適・否 |
| ⑹ | 流出口の槽底　　からの距離 | 沈積物を吸引しない距離（150mm程度） | （ 　 　　mm） | （ 　 　　mm） |  | 適・否 |
| ⑺ | 流入部と流出部の位置関係 | 停滞水を生じないものとすること | □対称・□その他（） | □対称・□その他（） |  | 適・否 |
| ⑻ | 貯水槽の材質 | 防錆措置を講じたもの | （　　　　製） | （　　　　製） |  | 適・否 |
| ⑼ | マンホールの直径 | 600mm以上 | （　　 　mm） | （　　 　mm） |  | 適・否 |
| マンホールの立ち上げ | 100mm程度 | （　 　　 mm） | （　 　　 mm） |  | 適・否 |
| マンホールの防水措置 | 防水密閉型とすること | □有・□無 | □有・□無 |  | 適・否 |
| マンホールの施錠 | 施錠できる構造とすること | □有・□無 | □有・□無 |  | 適・否 |
| マンホールの設置場所 | ボールタップ等の近傍に設けること | 近傍に□ 有 ・ □ 無 | 近傍に□ 有 ・ □ 無 |  | 適・否 |
| １槽当たりのマンホール数 | 必要に応じて複数設けること | （ 　　　個） | （ 　　　個） |  | 適・否 |
| ⑽ | 通気管の高さ | 汚水等が流入しない高さ（200mm程度、通気笠を設ける場合は100mm程度） | （　　　mm） | （　　　mm） |  | 適・否 |
| 通気管の口径及び数 | 流出管の口径の2分の1以上とすること（有効断面積を確保） | （ 　 　mm）x（　　）個流出管口径 　 （　　　mm） | （ 　 　mm）x（　　）個流出管口径 　 （　　　mm） |  | 適・否 |
| 通気管開口部の防虫網 | 網目は20ﾒｯｼｭ（約1.3mm）を標準 | （　　）ﾒｯｼｭ | （　　）ﾒｯｼｭ |  | 適・否 |
| ⑾ | ｵｰﾊﾞｰﾌﾛｰ管末端の排水口空間 | 150mm以上 | （　 　　mm） | （　 　　mm） |  | 適・否 |
| ｵｰﾊﾞｰﾌﾛｰ管と吐水口との垂直距離（吐水口空間） | 吐水口の呼び径に応じた距離 | 主吐水口側呼び径（ 　 　mm）空間（ 　 　mm） | 主吐水口側呼び径（ 　 　mm）空間（ 　 　mm） |  | 適・否 |
| 副吐水口側呼び径（ 　 　mm）空間（ 　 　mm） | 副吐水口側呼び径（ 　 　mm）空間（ 　 　mm） |  | 適・否 |
| ｵｰﾊﾞｰﾌﾛｰ管開口部の防虫網 | 網目は20ﾒｯｼｭ（約1.3mm）を標準 | （　　）ﾒｯｼｭ | （　　）ﾒｯｼｭ |  | 適・否 |
| ｵｰﾊﾞｰﾌﾛｰ管の口径 | 流入管の口径の1.4倍　以上とすること | 管口径（ 　 　mm）流入管（　 　mm） | 管口径（ 　 　mm）流入管（　 　mm） |  | 適・否 |
| ⑿ | 水抜管末端の　　　　排水口空間 | 排水口空間を　　　確保すること | □有・□無 | □有・□無 |  | 適・否 |
| 水抜管の取付位置 | 槽底の最低部とすること | 最低部に□有・□無 | 最低部に□有・□無 |  | 適・否 |
| 水抜管の排水用ホッパーの口径 | 床面に水が飛び散らない十分な大きさであること | （　 　　mm） | （　 　　mm） |  | 適・否 |
| 非常用給水栓 | 設けることが望ましい | □ 有 ・ □ 無 | □ 有 ・ □ 無 |  |  |

３　給水管　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（太枠内のみ記入）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 番号 | 項目 | 基準 | 設　計　値　等 | 参照図面番号等 | 判定 |
| ⑴ | 保守点検空間 | 設けること | □　有　・　□　無 |  | 適・否 |
| ⑵ | 飲料水が汚染されるおそれのある設備 | 内部を貫通させないこと | □　無　・　□　有 |  | 適・否 |
| ⑶ | 給水管及び継手 | 水質に影響を与えない　ものを使用すること | 管　種（　　　　　　　　　　　） |  | 適・否 |
| 継　手（　　　　　　　　　　　） |  | 適・否 |
| ⑷ | 直結給水栓（水道水使用の場合） | 設けること | □　有　・　□　無 |  | 適・否 |
| ⑸ | 他の配管との識別 | 識別できる措置を　講ずること | □色分け　　□文字表示□色バンド分け□その他（　　　　　　　） |  | 適・否 |
| ⑹ | 他の配管との接続の有無（クロスコネクション） | 接続しないこと | □　無　・　□　有 |  | 適・否 |
| ⑺ | 逆流防止措置 | 給水管末端に吐水口　　空間を確保すること | □　有　・　□　無 |  | 適・否 |

添付書類（審査項目の内容を説明できるもの）

１　図面

　⑴　付近見取図

　⑵　給水設備系統図（附帯する排水設備を含む。）

　⑶　給水設備主要機器表

　⑷　貯水槽（受水槽及び高置水槽）の設置場所がわかる図面

　⑸　貯水槽室平面・断面詳細図

　⑹　貯水槽本体平面・断面詳細図

　⑺　貯水槽室上階の給排水平面図

２　貯水槽容量算定計算書（１日使用水量の算定を含む。）

３　その他保健所長が必要と認める書類